

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月30日

機関番号：37117

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320044

研究課題名（和文）女性 MANGA 研究：主体性表現の可能性とグローバル化-欧米/日本/アジア

研究課題名（英文）Research in Women's Manga:
Subjectivity, Globalization, and the Possibilities for Expression

研究代表者

大城 房美 (OGI FUSAMI)

筑紫女学園大学・文学部・教授

研究者番号：80289595

研究成果の概要（和文）：

アメリカ女性コミックス、つまり、欧米を起点とした本研究は、3年間の研究期間で、欧米・日本・アジアと、順調に研究者のネットワークを拡げた。先行研究が殆ど存在しないため、調査を進めると同時に、研究の場を作ることを重視し、1年目には京都、2年目にはシンガポール、3年目にはハノイで、多国籍の参加者による国際会議を企画開催した。研究者・作家・読者という3面からのアプローチを実現した国際会議/展覧会/ワークショップを通して、女性とマンガ/コミックスの関係に、日本を越えグローバルに多様な文化を結びつける新しいメディアとしての可能性を示した。

研究成果の概要（英文）：

Our project on Women and Comics/Manga, which began with American Women's Comics, successfully developed a global network of comics/manga scholars in three years. Since there were few studies on women's comics/manga, it was crucial for us to create academic arenas for our project. Along with doing research, we organized one international conference including exhibits and workshops per year. The first one was in Kyoto, the second in Singapore, and the third in Hanoi. Throughout these events, the three dimensions of scholars, artists and readers suggested the potentiality of relationships between women and comics/manga as a new, global and cross-cultural phenomenon connecting with different cultures beyond Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2010年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2011年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
年度			
年度			
総計	13,700,000	4,110,000	17,810,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：表象文化論、マンガ、コミックス、女性、グローバル化、欧米、アジア、国際

1. 研究開始当初の背景

コミックスは、多くの文化が共有しているメディアだが、なかなかアカデミックな研究

対象とならず、1990年代に「マンガ」が日本発生で独自のスタイルと文法を持ったメディアとして海外で認知され始め、21世紀に

なってようやくその研究の歴史が始まったといえる。さらに「女性」というキーワードから、コミックス・マンガ文化を考察すると、その偏向はより明らかとなる。殆どの文化圏の人々にとって、コミックスは少年/男性文化を意味している。つまり、「女性」コミックス文化は学術的文化研究とコミックスの分野から二重に排除されてきた分野といえる。

近年海外では、コミックスの男性中心の傾向が MANGA の受容とともに変化し、女性読者/作家の数が増加傾向にある。MANGA のグローバル化とともに生じているこの傾向が、国境や文化を越えた「女性」表現を MANGA が触発した結果であるならば、異文化間に連動する「女性」主体性表現に関わる興味深い研究対象として取り上げるべきであると思いついた。

2. 研究の目的

各国の「女性」コミックスの社会的/歴史的な存在を改めて検証し、欧米/日本/アジアにおいて独自の文化の流れを形成しつつある MANGA 表現が「アイデンティティ」や主体性の表現にどう関わっているのか、比較文化論的視点から検討することで、「異文化を越えるメディアとしての MANGA の可能性」をあきらかにする。

3. 研究の方法

国内/海外において、女性コミックス/MANGA 文化に関わる資料・文献収集を行うとともに、日本/欧米/アジアにおける MANGA 文化に関する研究会/学会/イベントに参加し、国内外の研究者や作家と交流/連携を深め、情報交換/収集の場を構築し、MANGA 文化についての国内外の研究の周知と活性化に努める。女性コミックス/MANGA 文化の周知のため、「国際女性 MANGA 会議」(仮称)を各年度末に開催し、本研究の成果公表を段階的に行う。

4. 研究成果

<2009 年度>

日本/欧米/アジアにおける女性コミックス/MANGA 文化に関わる資料・文献収集をいつつ、研究会/学会/イベントに参加し、情報交換/収集の場を構築した。本共同研究の総称を「女性 MANGA 研究プロジェクト」として次の4点の活動(国際会議/展覧会/出版/研究会開催)を行い、国内外の研究者や作家と交流/連携を深めた。

(1)「コミックスを描く女性たち/アメリカ女性アーティストの100年」展を開催(2009年12月17日~2010年3月7日)。京都国際マンガミュージアムギャラリー1、2で、アメリカ女性コミックス作家による原画を54点展示。コレクションの所有者であり、

アメリカ女性コミックス研究の基盤をつくったトリナ・ロビンスを招聘し、福岡/京都で会議/対談を行った。

(2)国際学術会議「世界のコミックスとコミックスの世界 グローバルなマンガ研究の可能性を開くために」を共催し、企画協力。世界各国から研究者を招聘したこの会議は日英バイリンガルで開催された。「セッション1:少女マンガ、女性コミックス~ジェンダーとジャンルをめぐって」を担当。

(3)(1)の原画展覧会カタログを作成。国際会議に参加した研究者や主な研究機関に配付。カタログは、共同研究者と研究協力者小野耕世の分担執筆によるアメリカ女性コミックス史に関する論文、年表、ロビンスのエッセイと全ての展示作品の原文と日本語訳・解説を掲載しており、今後のアメリカ女性コミックス研究の基盤となることが期待される。

(4)展覧会期間中に「SHE DRAWS 「女性」が描く:コミックスを描く女性たち原画展バレンタイン研究会」を開催。MANGA のグローバル化と「女性」をテーマに、比較文化的な視点から討議を行った。

<2010 年度>

各研究者が各領域の調査を継続。その総括の場として女性 MANGA 研究についての国際会議をシンガポールで開催し、HP を開設した。

(1)調査:8月韓国(ソウル):吉原・大城は、1980年代より執筆活動を続ける純情漫画家ウオン・スヨン氏にインタビューを行う。10月ドイツ(ケルン+ライプチヒ):ベルントが中心となって企画した世界国際漫画会議(ケルン)に大城・ベルント、研究協力者が出席・研究発表、ライプチヒ大学では、若手研究者を中心とした研究発表会が行われた。12月シンガポール:大城は2月の国際会議の準備も含め、コミックコンの学術会議部門にパネルチェア、及び研究発表者として出席。

(2)アメリカ/日本/アジアという多国籍的視点を備えた本研究課題のもと、欧米・アジアの文化交流の中核に位置するシンガポールにて、シンガポール国立大学と国際交流基金との連携により、研究者・アーティスト双方による女性国際マンガ会議“Women's Manga Beyond Japan: Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia”を3日間にわたり開催。基調講演者として、コミックス研究の第一人者 John A. Lent を招聘。Lent は30年にわたる研究活動から、女性とコミックスの現状を解説。それに続き、女性とマンガをテーマにした研究発表(2日間)を行い、最終日は女性アー

ティストによるシンポジウムで締めくくった。アメリカ、ドイツ、ベネズエラ、日本、韓国、台湾、インドネシア、カンボジア、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポール、と国境を越えて集まった多国籍の参加者たちによって、活発な議論と意見交換がなされた。

(3)2011年3月、「女性 MANGA 研究プロジェクト」のタイトルで、ホームページ開設。

<2011 年度>

最終年度は本プロジェクトの成果の公表に重点を置き、出版と国際会議を中心に研究活動を行った。また、HP を日本語と英語のバイリンガルとした。

- (1) 出版：ベルント・大城は、研究協力者 Cheng Tju Lim と、2年目にシンガポール国立大学で開催した国際会議を特集“Women’s Manga Beyond Japan”として、米学術雑誌 *International Journal of Comic Art* に編集・掲載(論文 13 本)。この出版は、本プロジェクト活動のグローバルな周知に貢献した。
- (2)調査・研究：7 月英国：大城は、ロンドンで *Manga Shakespeare* を出版した Self Made Hero 社を訪問、編集主幹 Emma Hailey とミーティングを行った。吉原はブラハにて、シェイクスピアとマンガによるポップ・カルチャーの融合をテーマとした Global Spin-offs を司会、発表。ベルントは、研究会議「『女性マンガ』という視座マンガ研究科の 5 つのタマゴたち」を開催。9 月：ベルントは韓国富川にて第 3 回国際漫画会議を開催。1 月：大城は「東アジアの若者は今——日本のマンガ文化を中心に」を開催。2 月：中垣は、「研究会議 変貌する米国コミックス事情の最前線」を開催。大城は、オハイオ州立大学 Billy Ireland Cartoon Library、New York Public Library を調査訪問。また、ユダヤ女性コミックス展覧会を巡る国際会議を開催したコロンビア大学の Karen Green を訪問し、Butler Library のコミックス・英語翻訳漫画の所蔵状況を確認。
- (3)国際会議の開催：3 月ハノイ：国際交流基金より日本文化助成を受け、ベトナム日本文化センターと福岡県との共催で、「女性とマンガ：日本を越えて、繋がる文化」(Women and Manga: Connecting With Cultures Beyond Japan)を開催。展覧会とワークショップはベトナム日本文化センターが、国際会議は本プロジェクトが中核となった。ハノイ女性博物館で、ベトナムの研究者や学生を含め、英語/ベトナム語/日本語の多言語で行われた国際会議は、本研究の総括の場となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

Fusami Ogi, Cheng Tju Lim and Jaqueline Berndt [著、編、英語], *Women’s Manga Beyond Japan: Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia*, *International Journal of Comic of Art 2011 Fall*, Vol.13, No.2, pp.1-199, 査読有、2012 年本特集は研究代表者・分担者・協力者による以下計 13 本の論文を所収：

- ① Fusami Ogi, “Women’s Manga Beyond Japan: Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia,” pp.3-6.
- ② John A. Lent, “Yes, There Are Women Cartoonists: Snippets from Those I Have Interviewed,” pp.7-31.
- ③ Fusami Ogi, “Inspiring Women: 40 Years’ Transformation of *Shōjo Manga* and Women’s Voices,” pp.32-56.
- ④ CJ (Suzuki) Shige, “Envisioning Alternative Communities through a Popular Medium: Speculative Imagination in Hagio Moto’s *Girls’ Comics*,” pp.57-74.
- ⑤ Ming Hung Alex Tu, “‘Silent Music’: Desiring-machine and Femininity in Some Music-themed Comics,” pp.75-86.
- ⑥ Fujimoto Yukari, “Historical *Shōjo Manga*: On Women’s Alleged Dislike,” pp.87-102.
- ⑦ Akiko Sugawa-Shimada, “Functions and Possibilities of Female ‘Essay Manga’: Resistance, Negotiation, and Pleasure,” pp.103-115.
- ⑧ Kim Hyojin, “Crossing Double Borders: Korean Female Amateur Comics Artists in the Globalization of Japanese Dojin Culture,” pp.116-133.
- ⑨ Dwinita Larasati, “So, How Was Your Day? The Emergence of Graphic Diary and Female Artists in Indonesia,” pp.134-142.
- ⑩ Mashima Tojirakarn, “Why Thai Girls’ Manga Are Not ‘Shojo Manga’: Japanese Discourse and the Reality of Globalization,” pp.143-163.
- ⑪ Gan Sheuo Hui, “Manga in Malaysia: An Approach to Its Current Hybridity through the Career of the Shojo Mangaka Kaoru,” pp.164-178.
- ⑫ Angela Moreno Acosta, “Women ‘Using

Manga to Tell Local Stories' A Workshop on the 'Glocality' of Manga in Southeast Asia," pp.179-197.

- ⑬ Lim Cheng Tju, "Afterwords," pp.198-199.
- ⑭ 中垣恒太郎、五島一美、田辺章、渡邊俊、「ゼロ年代『セカイ系』アニメにおける社会領域と公共圏」、『大東文化大学紀要<人文科学>』、第49号、167-186頁、査読無、2011年
- ⑮ 大城房美、「『グラフィック・ノベル』という文学形式の可能性についての詩論(1) *Fun Home* と *Cather in the Rye*」、『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』、第6号、査読無、27-39頁、2011年
- ⑯ ジャクリーヌ・ベルント、「『リアル』なマンガとは？ 多様性と雑種性、そして関係性」、古市保子編『新次元 マンガ表現の現在』展図録、日本国際交流基金、199-206頁、査読有、2010年
- ⑰ Jaqueline Berndt, " 'Real' Manga: Diversity, Hybridity, Relationalities," Furuichi Yasuko, ed., *Manga Realities: Exploring the Art of Japanese Comics Today* (exh.cat.), The Japan Foundation, pp.213-219, 査読有, 2010年
- ⑱ 中垣恒太郎、「グローバリゼーション時代における文化交流の可能性——ポピュラー・カルチャーは国家的・文化的交流を変容させるのか?」、杉田米行編『グローバリゼーションとアメリカ・アジア太平洋地域』(大学教育出版)、査読有、79-108頁、2009年
- ⑲ Jaqueline Berndt, "Shōjo global: Japanische Mädchenmanga zwischen Kitsch und Kritik," *kj&m*, Heft 3 (special issues: Harr Harr! Comics und Bildgeschichten in der Kinder- und Jugendliteratur), pp.32-38, 査読有, 2009年

[学会発表] (計 30 件)

大城房美 (企画・司会)、中垣恒太郎 (企画・司会)、「女性とマンガ: 日本を越え、つながりゆく文化」(Women and Manga: Connecting With Cultures Beyond Japan) 展覧会×講演・ワークショップ×国際会議[英語+日本語+ベトナム語]、(共催) 国際交流基金ベトナム日本文化交流センター、アジアンビート・福岡県、女性 MANGA 研究プロジェクト (協力) 少女マンガパワープロジェクト、2012年3月21日-25日、国際交流基金

ベトナム日本文化交流センター、ハノイ女性博物館 [研究代表者・分担者・協力者による研究発表 11 本を含む。以下、代表者・分担者による発表題目 3 本:]

- ① 大城房美、「少女マンガ黄金期 かわいいとクール」(The Golden Age of Shōjo Manga - Kawaii and Cool) 2012年3月25日、ハノイ女性博物館、
- ② Jaqueline Berndt, "Gendering Comics: Possibilities and Limitations of 'Women's Manga'," 2012年3月23日、ハノイ女性博物館、
- ③ 中垣恒太郎、「少女マンガと女性マンガ」(Shojo Manga and Women's Manga) 2012年3月25日、ハノイ女性博物館]
- ④ 中垣恒太郎 (企画/司会)、「研究会議:変貌する米国コミックス事情の最前線」2012年2月4日、京都国際マンガミュージアム
- ⑤ 大城房美 (企画・コーディネーター・司会)、ワールドレポート「東アジアの若者は今——日本のマンガ文化を中心に」、[大城房美、基調講演「日本のマンガ文化と海外への越境現象～少女マンガを中心として」、Kim Hyojin, Alex Tu, and FSc による発表とパネルを含む] (財)アジア女性交流・研究フォーラム(KFAW)主催、女性 MANGA 研究プロジェクト協力、2012年1月28日、北九州市立男女共同参画センタームーブ
- ⑥ Kotaro Nakagaki, "The Atomic Holocaust in the Perspectives of Shojo: From Sirato Sanpei's *A Vanishing Girl* to Kono Fumiyo's *At the Corner of This World*," Comic Arts Conference, 2011年7月22日, San Diego, USA
- ⑦ ジャクリーヌ・ベルント (企画/司会)、「『女性マンガ』という視座: マンガ研究科の5つのタマゴたち」、2011年7月16日、京都国際マンガミュージアム

Fusami Ogi [panel leader], パネル "Uniting Different Cultures and Identities: Women's Comics and Manga," 2011 Joint onference of the Association for Asian Studies (AAS) & International Convention of Asia Scholars (ICAS), 2011年4月2日, Hawaii, USA [研究代表者/分担者/協力者の研究発表 5 本を含む。以下、代表者、分担者の発表題目 2 本:]

- ⑧ Fusami Ogi, "Inspiring Women: Comics/Manga as a NEW Genre in Japan and the US,"
- ⑨ Kotaro Nakagaki, "Enlarging Women Manga Markets: Family Issues and the

Autobiographical Tradition / Innovation of Japanese Women Manga Artists”]

Fusami Ogi(企画・司会), Jaqueline Berndt (企画・司会), Cheng Tju Lim (企画), 国際会議 “Women’s Manga Beyond Japan: Contemporary Comics as Cultural Crossroads in Asia,” 女性 MANGA 研究プロジェクト、国際交流基金、シンガポール国立大学共催、2011 年 2 月 22 日, National University of Singapore [研究代表者・分担者・協力者による研究発表 14 本を含む。以下、代表者と分担者による研究発表題目 3 本:

- ⑩ Fusami Ogi, “Uniting Various Cultures and Identities: 40 Years’ Transformation of Women’s Manga and Their Voice,”
- ⑪ Jaqueline Berndt, “Previously Women’s Literature, now Women’s Manga? Some Methodological Thoughts from the Perspective of Comics Studies,”
- ⑫ Kotaro Nakagaki, “Exploring Their “Once-Secret” Sphere: Innovation of Japanese Women Manga Autobiography Works”]
- ⑬ 萩尾望都、米村典子、大城房美 (企画)、「公開講座: 萩尾望都の世界——文学とアート、そして共生するジャンル」、筑紫女学園大学英語学科主催、女性 MANGA プロジェクト共催、2010 年 12 月 19 日、九州国立博物館
- ⑭ Fusami Ogi, “History of Shōjo Manga Style: a Woman’s Voice since the 19 Singapore Toy, Games & Comic Convention STGCC 70s,” 2010 年 12 月 11 日, Suntec Singapore Hall, Singapore
- ⑮ ジャクリーヌ・ベルント、「政治問題としての BL」、ドイツ・ハンブルク市応用科学大学デザイン学部特別講演、2010 11 月 2 日、ドイツ・ハンブルク市応用科学大学デザイン学部

Jaqueline Berndt (企画・司会), *Intercultural Crossovers, Transcultural Flows: Manga/Comics* (The Center for Intercultural and Transcultural Studies, University of Cologne, 世界マンガ国際会議第 2 回大会)、2010 年 9 月 30 日、ドイツ・ケルン日本文化会館 [研究代表者/分担者の研究発表を含む。以下、代表者、分担者の研究発表題目 2 本:

- ⑯ Jaqueline Berndt 「マンガ研究と日本研究から見たマンガの文化横断論」
- ⑰ Fusami Ogi, “NARUTO As a Trans-Cultural Graphic Novel in North America: Uniting Superheroes and Women”]
- ⑱ 大城房美、「かわいらしさからの挑戦「女性の主体性」、筑波大学比較・理論文学会、2010 年 8 月 1 日、筑波大学
- ⑲ Fusami Ogi, “Manga as a Hybrid Culture,” 福岡女子大学と California State University at Northridge (CSUN), 2010 年 6 月 14 日、福岡女子大学
- ⑳ Yukari Yoshihara, “Un-Shakespearizing Shakespeare and Un-Japanizing Manga,” Association for Asian Studies, 2010 年 3 月 28 日, Philadelphia, Downtown Marriot
- ㉑ 大城房美 (企画・司会)、中垣恒太郎、吉原ゆかり、金素媛、ジャクリーヌ・ベルント (企画・司会)、増田のぞみ、須川亜紀子、倉持佳代子、「SHE DRAWS 「女性」が描く: コミックスを描く女性たち原画展バレンタイン研究会」(京都精華大学国際マンガ研究センターと女性 MANGA プロジェクトとの共催シンポジウム)、2010 年 2 月 14 日、京都国際マンガミュージアム
- ㉒ ジャクリーヌ・ベルント、ウエンディ・ウォン、「香港コミックスとその実写映画化その物語における社会問題に関わる役割を中心に」、京都精華大学国際マンガ研究センター、2010/01/05、京都国際マンガミュージアム
- ㉓ 大城房美 (企画・司会)、Trina Robbins、溝口彰子、Wendy Wong、伊藤公雄、「セッション 1: 少女マンガ、女性コミックス～ジェンダーとジャンルをめぐって (Session 1: Shojō Manga, Women’s Comics – On Gender and Genre)」、国際学術会議「世界のコミックスとコミックスの世界 グローバルなマンガ研究の可能性を開くために」(Comics Worlds and the World of Comics Scholarship on a Global Scale) [共催・助成: 京都精華大学国際マンガ研究センター・国際交流基金・東京ドイツ文化センター・女性 MANGA 研究プロジェクト] (日本語と英語のバイリンガル)、2009 年 12 月 19 日、京都国際マンガミュージアム
- ㉔ Trina Robbins、竹宮恵子、大城房美 (企画・司会)、吉原ゆかり (通訳)、「コミックスを描く女性たち アメリカの女性コミックアーティストたちの 100 年」展オープニング記念対談「日本女性マンガ・アメリカ女性コミックスの転換期としての 70 年代」、京都国際マンガミュージアム主催、女性

MANGA プロジェクト共催、2009年12月17日、京都国際マンガミュージアム

- ②⑤ Trina Robbins、溝口彰子、大城房美、「日米女性 MANGA—境界を越えた共生—」、筑紫女学園大学公開講座、2009年12月13日、福岡アジア美術館あじびホール
- ②⑥ Kano Miyamoto, Akiko Mizoguchi, Fusami Ogi, “Celebrating the 49th Anniversary Since the Birth of Yaoi with Manga-ka Kano Miyamoto,” Yaoi Con, 2009年11月1日, San Francisco, USA
- ②⑦ Fusami Ogi, The History of Shoujo manga, School of Visual Arts (米国ニューヨーク州ニューヨーク市) 特別講演、Friends of Lulu 共催、2009年9月18日, School of Visual Arts
- ②⑧ Kotaro Nakagaki, “Searching for Lost Neighbors: The Tradition and Transition of Japanese Folklore as Yokai / Obake / Spirit through Japanese Anime,” International Convention of Asian Scholars the 6th Conference, 2009年8月6日、於・韓国大田
- ②⑨ 中垣恒太郎、「グローバル化時代における文化交流の可能性—ポピュラー・カルチャーは国家的／文化的特質を容れさせるのか?」、大阪大学外国語学部特別講演、2009年6月19日、大阪大学外国語学部
- ③⑩ 大城房美、「少女マンガと越境」、福岡女子大学文学部英文学科特別講演、2009年6月15日、福岡女子大学

〔図書〕(計6件)、

- ① Jaqueline Berndt [編・著、英語＋日本語の学術論集]、*Manhwa Manga Manhua: East Asian Comics Studies*, Leipzig University Press, 150頁, 2011年
- ② J・ベルント編、『日マン独：2011年の日独交流 150周年を記念するマンガ/コミック・ブログ』ディルク・シュヴィーガー、松岡和佳、クリスティーナ・プラカ作、東京ドイツ文化センター発行、160頁、2011年
- ③ J・ベルント編 *Comics Worlds and the World of Comics*、京都：国際マンガ研究センター、301頁、2010年 [研究分担者・協力者の論文を所収：溝口彰子、ウェンディ・ウォン/黄少儀；研究分担者による和英翻訳：吉原ゆかり、中垣恒太郎]
- ④ J・ベルント編『世界のコミックスとコミックスの世界』、京都：国際マンガ研究センター、327頁、2010年 [研究分担者・協力者の論文を所収：溝口彰子、ウェンディ・ウォン/黄少儀；研究分担者による

和英翻訳：吉原ゆかり、中垣恒太郎]

- ⑤ 大城房美、一木順、本浜秀彦 編『マンガは越境する！』、世界思想社、271頁、2010年 [研究代表者、分担者の論文を所収：大城房美「越境する少女マンガとジェンダー」110-134頁、ジャクリーヌ・ベルント、「グローバル化するマンガ：その諸種類と感性文化」19-39頁]
- ⑥ トリナ・ロビンス、大城房美 監修『コミックスを描く女性たち アメリカの女性アーティストたちの100年』、花書院、86頁、2009年 [研究分担者/協力者の論文6本を所収：大城房美「かわいらしさからの挑戦—初期のアメリカ女性コミックスアーティスト」10-11頁、中垣恒太郎「『ブレンダ・スター』・『ワンダー・ウーマン』—女性文化の黎明期としての1940年代アメリカ」12-13頁、小野耕世「アメリカにおけるロマンス・コミックスの変遷」14-15頁、吉原ゆかり「女性たちのコミックス、ガールズコミックス復活の試み」16-17頁、溝口彰子「現代のレズビアン・コミックス、新聞コミックス、21世紀の女性たちによるアメリカン・コミックス」18-19頁、ジャクリーヌ・ベルント「女性コミックスという空白—欧米の状況から見た本展の功績を巡って」20-21頁]

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.chikushi-u.ac.jp/womenandmanga>

http://www.fas.nus.edu.sg/jps/research/womens_manga_beyond_japan.htm

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大城 房美 (OGI FUSAMI)
筑紫女学園大学・文学部・教授
研究者番号：80289595

(2) 研究分担者

ジャクリーヌ ベルント (JAQUELINE BERNDT)
京都精華大学・マンガ学部・教授
研究者番号：00241159

中垣 恒太郎 (NAKAGAKI KOTARO)
大東文化大学・経済学部・准教授
研究者番号：80350396

吉原 ゆかり (YOSHIHARA YUKARI)
筑波大学・人文社会科学研究科・准教授
研究者番号：70249621